令和４年１０月

保護者・地域の皆様へ

【中学校版】令和４年度全国学力・学習状況調査の結果

菰野町教育委員会

令和４年４月１９日に、中学校３年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果の概要をまとめました。

結果の公表については、保護者・地域の皆様に学校教育と家庭教育についてのご理解とご協力を得ることが何よりも大切であると考え、教科に関する結果、学力の背景となっている生徒質問紙調査からみられた本町の生徒の好ましい傾向と教育課題、そして今後の取り組みについてお示しさせていただきます。

教科に関する調査結果の概要

教科に関する調査は、国語、数学、理科の３教科で実施されました。本町では、国語、数学、理科それぞれにおいて、全国の平均正答率を下回る結果となりました。

以下に、調査結果から「おおむね理解している問題」と「課題がみられた問題」についてまとめました。

【中学校　国語】

≪おおむね理解している問題≫

◇　漢字の行書の読みやすい書き方について選択する問題。（正答率：約９割）

・行書で書いた文字の「漢字のバランス」について説明したものとして適切なものを選択することができます。

≪課題がみられた問題≫

◆　自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題。（正答率：約４割）

・【コメントの一部】を踏まえた上で、【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を適切に引用し、「例えば、」に続く形で【意見文の下書き】に「スマート農業の効果」を加筆することに課題がみられます。

課題がみられた問題

三　小林さんは、上野さんと中村さんからの【コメントの一部】を踏まえて、□で囲まれた「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1　【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を引用して書くこと。引用する部分は、かぎかっこ（「　」）でくくること。

条件2　「例えば、」に続けて書くこと。

小林さんが書いた【意見文の下書き】と友達が書いた【コメントの一部】，小林さんがコメントを受けて集めた【農林水産省のウェブページにある資料の一部】です。これらを読んで，あとの問いに答えなさい。

【意見文の下書き】

私たちの生活は，先端技術により，わずかな期間で大きく様変わりしてきている。便利なことが増えてよいと感じるが，目的に応じて選択して活用することが大切だと思う。

そう考えるようになったのは，農業を営み，広大な農地を二人で管理している祖父母に，スマート農業についての話を聞いたからだ。祖父母は，今年になってからロボットトラクタを導入し，作業の一部を自動化した。そのおかげで，農地を耕したり種をまいたりすることに加え，草を取りのぞく作業も効率よく進むようになったという。負担が軽減したことをよろこんでいる祖父母に，他に取り入れているものはないかを聞いてみた。すると，「スマート農業に関連する様々な先端技術はあるが，これまでの経験を生かして対応できるので，他には取り入れていない。」とのことだった。スマート農業には，作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。しかし，祖父母は，自分たちに必要なものを選択して活用していた。

これは，私たちも意識しなければならないことだと思った。今後，身の回りには様々な先端技術がさらに普及していくだろう。私も祖父母のように，目的に応じて選択しながら先端技術を活用していきたい。

【コメントの一部】

上野　他にどのような効果があるのかを具体的に書いた方がよいのではないでしょうか。

中村　私も同感です。スマート農業の効果を書き加えることで，小林さんが，自分の考えの根拠として示しているこの段落の内容が分かりやすくなると思います。

【農林水産省のウェブページにある資料の一部】

スマート農業について

「農業」×「先端技術」＝「スマート農業」

「スマート農業」とは，「ロボット，AI，IoTなど先端技術を活用する農業」のこと。

➡「生産現場の課題を先端技術で解決する！農業分野におけるSociety5.0※の実現」

※Society5.0：政府が提唱する，テクノロジーが進化した未来社会の姿

スマート農業の効果

① 作業の自動化
ロボットトラクタ，スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により，作業を自動化し人手を省くことが可能に

② 情報共有の簡易化
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により，作業の記録をデジタル化・自動化し，熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に

③ データの活用
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により，農作物の生育や病虫害を予測し，高度な農業経営が可能に

≪今後の学習の手立て≫

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確に記述する学習を大切にしていきます。根拠を明確に記述するにあたって、複数の事例や専門的な立場からの意見などを引用することも一つの方法です。そのため、資料から必要な部分を引用して自分の考えを伝える文章を書き、互いに読み合い、引用の仕方について理解を深めるようにしていきます。その際、「文章の言葉をそのまま抜き出す」「引用する時は、引用する部分をかぎ（「　」）でくくる」という引用の方法についても確認し合う学習場面も大切にしていきます。

【中学校　数学】

≪おおむね理解している問題≫

◇ 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を記述する問題。（正答率：約７割）

・証明で用いられている三角形の合同条件を書くことができます。

≪課題がみられた問題≫

◆ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題。（正答率：約３割）

・二酸化炭素削減量が目標の３００kg を達成するまでの日数を求める方法をグラフや式を用いて説明することに課題がみられます。

課題がみられた問題

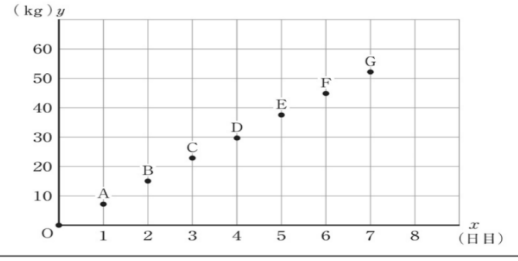
そして，**家庭でできる二酸化炭素削減の取り組み**の中から，生徒それぞれの家庭でできることを選んで取り組むことにしました。その取り組みの成果について，１日ごとの学級 30 人分の削減量をもとに，その日までの二酸化炭素削減量の合計を記録することにしました。

取り組みを始めた日の前日を０日目とし，x 日目までの二酸化炭素削減量の合計を y kg として，次のように表にまとめ，表の x と y の値の組を下のグラフに表しました。

二酸化炭素削減量の合計の記録

x（日目）	0	1	2	3	4	5	6	7
y（kg）	0	7.2	15.2	22.8	29.7	37.8	44.9	52.4

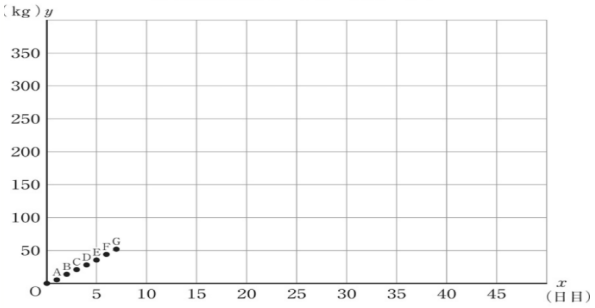
※ y の値は小数第２位を四捨五入



（２）愛理さんは，７日目までの取り組みの結果から，目標を達成できるのがおよそ何日目になるかを予測することにしました。

そこで，下の**二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフ**において，原点Ｏから点Ｇまでの点が一直線上にあるとし，このまま同じように取り組みを続け，二酸化炭素削減量の合計が一定の割合で増加すると仮定して考えることにしました。

二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフ



このとき，目標の 300 kg 削減を達成できるのがおよそ何日目になるかを求める方法を説明しなさい。ただし，実際に何日目になるかを求める必要はありません。

≪今後の学習の手立て≫

日常生活や社会の中で見られる事象に関わる様々な問題を、数学を活用して解決できるような指導を大切にしていきます。その際に、表や式、グラフなど、何を用いて問題を解決するのかといった「用いるもの」と、それをどのように用いて問題を解決するのかといった「用い方」について考えさせる場面を設定していきます。

また、実際に行った解決の過程を振り返り、そのときに用いた方法について、「用いるもの」や「用い方」のどちらか一方の説明だけではなく、両方に着目させて説明させる学習を大切にしていきます。

【中学校理科】

≪おおむね理解している問題≫

◇ モデルを使った実験において、条件を制御した実験を計画する問題。（正答率：約７割）

・タブレット型端末のタッチパネルが反応するのは水が関係しているかどうかを調べるために、「変化させる条件」と「変化させない条件」の適切な組み合わせを選択することができます。

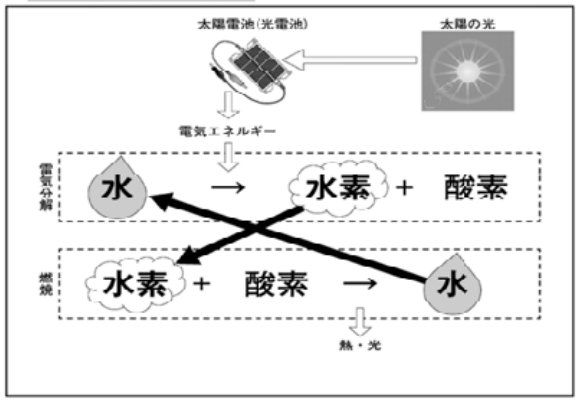
≪課題がみられた問題≫

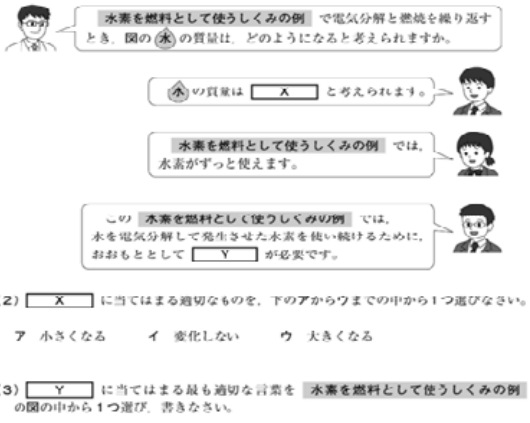
◆ 化学変化に関する知識と「エネルギー」領域の知識を関連付け、「水素を燃料として使うしくみの例」の中で全体を働かせる「おおもと」について分析し解釈する問題。（正答率：約１割）

・「水素を燃料として使うしくみの例」の中で全体を働かせる「おおもと」を指摘することに課題がみられます。

課題がみられた問題

図　水素を燃料として使うしくみの例





≪今後の学習の手立て≫
　水の電気分解や水素の燃焼などの「化学変化」には、電気、熱、光などのエネルギーが関連していることに気づくことが大切です。化学変化を起こすきっかけとなるエネルギーの種類だけでなく、エネルギーが生み出される過程について触れる学習を大切にしていきます。

生徒質問紙調査からみられた傾向と課題

菰野町の子どもたち

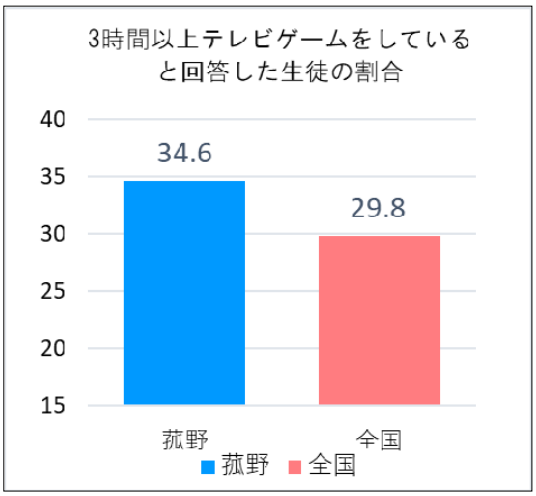
自分には よいところがある	将来の夢や目標を 持っている	学校に行くことが 楽しい	友達と協力する のは楽しい	地域の行事に 参加している
80.2%	73.1%	83.7%	94.7%	45.3%
（全国 78.5%）	（全国 67.3%）	（全国 82.9%）	（全国 93.7%）	（全国 40.0%）

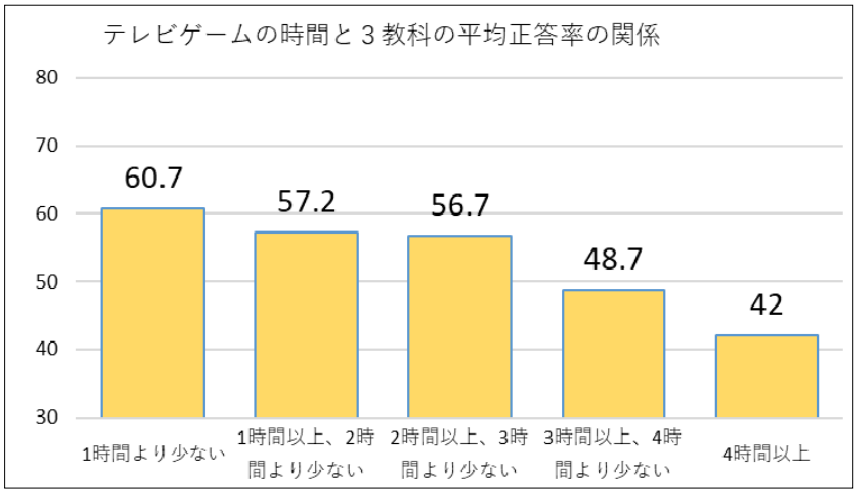
※子どもたちが生徒質問紙で肯定的に回答した割合が全国より高かった設問より

　菰野町では、教育活動全体において、子どもたち一人ひとりをほめたり、認めたり、励ましたりしながら自尊感情を育むこと、仲間と安心して学び合える学習環境をつくることを大切にしてまいりました。今後も、子どもたち一人ひとりのよさを認めたり、達成感を味わわせたりする教育活動を推進し、子どもたちが将来の夢や目標の実現に向かって自信を高めていけるよう努めてまいります。
　また、菰野町の子どもたちは、保護者・地域の皆様に支えられ、すこやかに成長しています。今後も保護者・地域の皆様と連携・協働して地域ならではの特色を生かした学校づくりを進めてまいります。

ご家庭でお願いしたいこと

Q　普段、１日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか





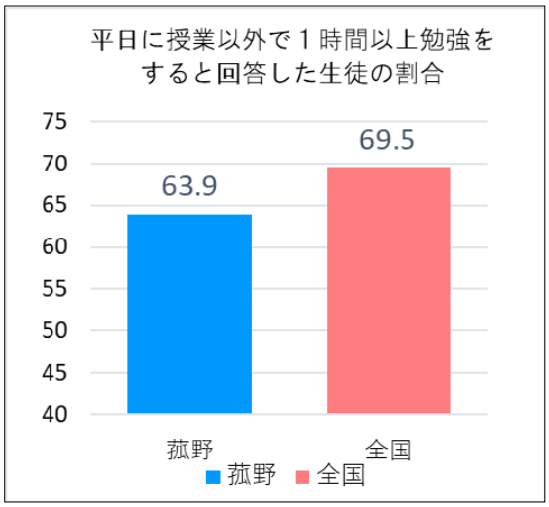
３時間以上テレビゲームをしていると回答した生徒の割合は、全国と比べて高い傾向にあります。

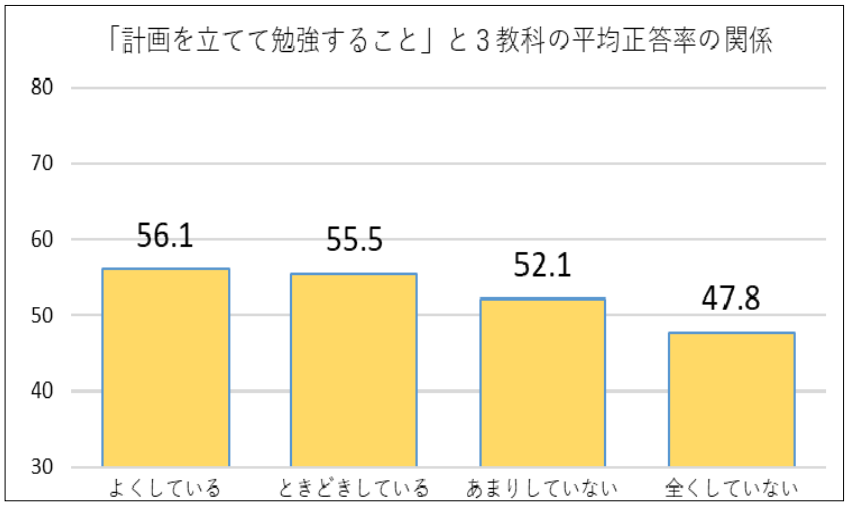
テレビゲームの時間が少ない生徒ほど、３教科の正答率が高い傾向にあります。また、テレビゲームの時間が長い生徒ほど、正答率が低い傾向にあります。

ゲームをする時間についてお子さんと話し合いましょう

　ゲームに夢中になると時間がたつのを忘れてしまいます。特に自室にゲームがあると、自制することが難しく、長時間の使用につながりやすくなります。長時間の使用は生活リズムが崩れるだけでなく、日常の学校生活や健康面にも影響を及ぼすことが心配されます。お子さんと話し合い、ゲームをする際の決まりをしっかりと定めてください。特に、ゲームをする時間や場所（親が見ている場所でする等）を約束し、守るよう声掛けをお願いします。

Q　学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか





授業以外で１時間以上勉強をしていると回答した生徒の割合は、全国と比べて低い傾向にあります。

家で、自分で計画を立てて勉強（予習や復習をふくむ）をしている生徒ほど、３教科の正答率が高い傾向にあります。

家庭で学習する習慣を身に付けさせましょう

家庭学習の基本は学校の宿題です。反復練習や授業の予習・復習に日常的に取り組むことで、基礎・基本が確実に定着します。また、家庭学習においても計画を立てることは大切です。見通しが立つだけでなく、計画通りに学習が進むことは達成感にもつながります。子どもたちが毎日の宿題に取り組むことができるように、励ましの声かけや学習に集中して取り組める環境づくりにご協力をお願いします。また、菰野町では、家庭学習の充実ために「家庭学習の手引き」を作成し、子どもたちと保護者の皆様に配付しています。「家庭学習の手引き」をご活用いただき、お子さんと一緒に家庭学習の取り組みについて、振り返っていただきますようお願いします。

保護者・地域の皆様へ

菰野町では、学校と教育委員会が一体となって、子どもたちの「確かな学力」の育成をめざして、子どもたちが「わかる・できる喜び」を実感できる授業改善と学力向上に向けた取り組みを進めてまいります。

今後も、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの成長を支えてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。